

# 定置網漁業における混獲回避に関する研究

漁業生産工学部

## 研究の背景・目的

定置網漁業は、重要な沿岸漁業のひとつで、海のある全ての都道府県で行われています。この漁業は、漁具を地先海域に固定して、魚などの入網を「座して待つ」というものであり、しばしば、アザラシやトドなどの海獣類や大量のクラゲ類など「招かれざる客」が入網して、漁獲物の品質低下や漁労作業の負担増、漁具の損傷などが起こっています。そこで、漁具・漁法グループでは、京都府や北海道大学と連携して、これらの対策技術の開発に取り組んでいます。

## 研究成果

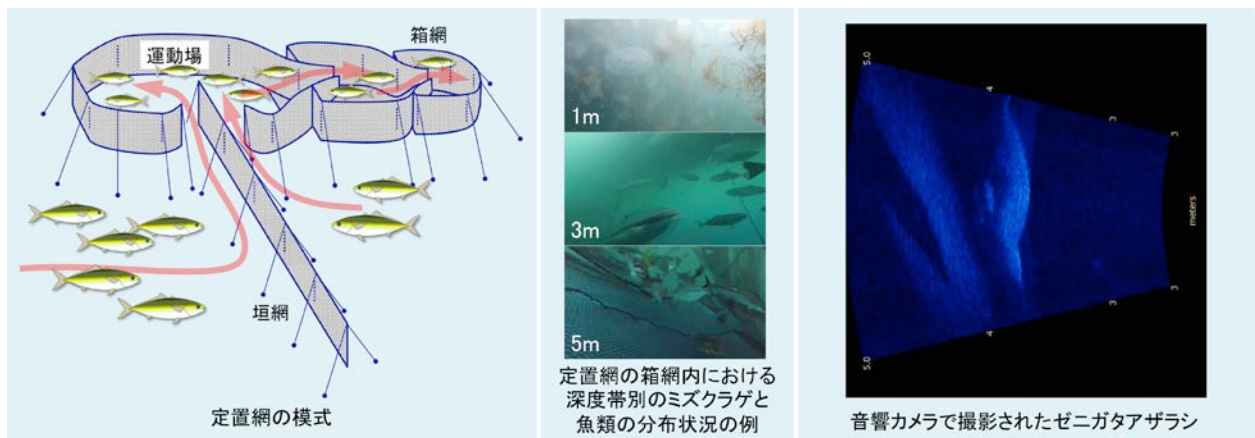
クラゲ類への対応としては、京都府と連携して、網内に入網したクラゲ類の効率的な排出を目指した取り組みを行っています。これまでに、水中ビデオカメラなどを用いて、ミズクラゲ等のクラゲ類と漁獲対象とする魚類等の定置網内での行動や分布状況の違いを調べました。今後、この結果をもとに、魚類を逃がさずにクラゲ類のみを排出する装置の開発につなげていく予定です。

海獣類への対応としては、北海道大学に協力して、ゼニガタアザラシと漁業との共存を目指す取り組みを行っています。この調査では、超音波を使って海中を撮影する「音響カメラ」と呼ばれる機器などを用いて、アザラシの網内での行動を観察しています。

## 波及効果

クラゲ類の問題は、本州を中心とした沿岸各地の共通の課題です。この調査を通じてクラゲ類排出装置を実用化することが出来れば、定置網漁業全体の生産性の向上に貢献できます。

また、アザラシなどの海獣類の保全是国際的にも重要な課題です。この調査を通じて海獣類と漁業との適切な共存方法が見出されれば、漁業の持続的発展と生物多様性の保全に貢献できます。



(漁具・漁法グループ:越智洋介・山崎慎太郎・藤田 薫)